

広島市教育センター報

No. 13

昭和58年6月

広島市教育センター

広島市東区牛田新町一丁目17番1号

〒730 電話 (082) 223-3563

精衛海を^{うず}填む

広島市教育センター所長 岩竹 亨

二十年前ばかりも以前のことで。感情や思考の振幅の大きい高等学校の子どもたちに、次のような話をしたことがあります。

「あるとき、炎帝の娘が東海に遊び、あやまって海にのまれた。彼女の魂は精衛という小鳥と化し、自分をのんだ海を填めようと、断えず西山の木石を日にふくんで東海に去来しつづけているという。中国の昔から伝えられている話である。

後人は、この伝説にいくつかの解釈を施した。そのほとんどは、彼女の努力をあざけて、むだごと、徒勞の意に解している。しかし、解釈とは所詮その人自らを語ることにほかならぬとすれば、この精衛の営みを、人間のいちずな願望・執心の象徴として、あわれにも美しいとみる者がときにあったとしても、別に不都合ではあるまい。

思えば、われわれの日々の営みのなかにおいても、万事徒勞の思いに胸ふさがるときも少なくない。たとえば、自他に対する誠実という問題においても、自らに課すべき研鑽ということについても。しかし、一つ一つの願いに誠実に生きようとする者にとって、大切なのは、徒勞と感ずる自らの心の重さに耐えて生きぬくことであろう。輝やかなしい人類の歴史などというものも、一面から見れば、徒勞とも思われるそれぞれの営みに耐えたさまざ

まな人間の、執心と努力の連続であり、累積であるとも言えよう。……」

これは山海経という古書に載せられている話です。その後も二度ばかり、教育関係の方々にお話したそのなかに、この故事をさしはさんだことがあります。どの場合にも、弱い自分への戒めの思いをこめて話してきました。

現在ほど学校教育が多様な課題に直面し、期待と批判を受けている時代はないと言っても過言ではないでしょう。従来のパターンでは理解しきれなくなっている子どもたちの、心のひだにひそむものをとらえようとする努力にもかかわらず、焦燥と徒勞感の連続のなかで挫折していく教師の姿も、いろいろな形で伝えられています。教師にとって、子どもが見えなくなるほどもどかしくつらいことはありません。けれども、それに耐え、それを乗り越えていく以外に教師としての生き方はなく、そのような教師なくしては、今日の教育課題の解決は望めません。教育に携わる私たちは、課題解決へのいちずな願いを抱きながら、お互いに助け合い、励まし合い、鍛え合いながら歩みつづけたいものです。

当教育センターが、先生方とともに、お互いを励まし合い、鍛え合う場であるよう、これからもいっそう努力しつづけていきたいと思っています。

研修講座へのおさそい

当教育センターでは、今年度は次のような種別で年間154の講座を計画しています。昨年度は延べ12,452名の先生方が参加されました。今年度もより多くの先生方の御参加を期待しています。

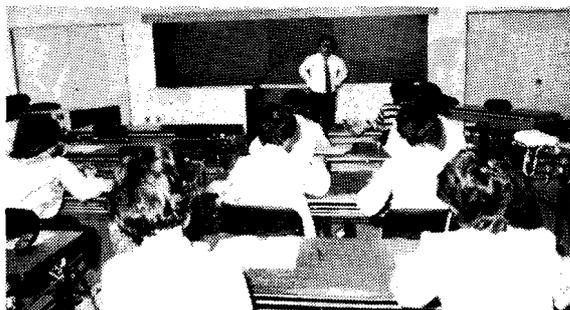
- 教職・教養関係の講座
- 教科・領域指導関係の講座
- 実験・実技関係の講座
- 学校経営関係の講座
- 学校事務関係の講座
- 社会教育関係の講座

以下、講座のいくつかを紹介します。

◆教職・教養関係の講座

教育関係職員として必要な知識や基本的事項について幅広く研修していただくための講座です。

たとえば、「生徒指導講座」では「生徒指導における基本問題と指導の在り方」について2日間の日程で行われ、基本的・理論的な面は大学教官、実践的な面は学校等の先生方によって指導が行われます。また、分散会ごとの研究協議により、各先生方の直面しておられる問題点等について、相互に研修を深めていきます。



◆教科・領域指導関係の講座

各教科、道徳、特別活動における指導の工夫と改善を目指して行われる講座です。

たとえば、「中学校英語科指導講座」では「言語活動における指導上の工夫と改善」というテーマのもとづいて大学教官による「言語活動における基本的事項」の講義や、中学校の先生による「言語活動を重視した学習指導の実際」についての実践発表、外国人講師による「音声指導の工夫と聴取訓練」等、英語運用力の向上を図るために多様な形態で研

修をすすめていきます。



◆実験・実技関係の講座

実験・実技指導上必要な技術的事項等を身に付けていただくための講座です。

たとえば、「小学校野外実習講座1組」では、「春の野山の野外観察の方法と実習」というテーマのもとづき、1日目は指導事例の発表をしていただく中で、実技として標本の作り方を、2日目は「せせらぎ公園」に出かけて、春の草花や生きものの観察の方法や資料の収集について実習を行いました。

なお、秋には「秋の野山の野外観察の方法と実習」というテーマでこのような講座の実施を予定しています。



英語演習講座から

英語関係講座のうち、英語演習に関する講座は外国人指導者を招いて実施しています。指導者の感想と受講された先生の外国人指導者への感触を聞いてみました。

◆ 日本の英語教師との出会い

指導課米国人英語指導主事助手

リンダ・ジャックソン

教育センターで、英語講座を行うことは、今の私にとって一つの楽しみになっています。

学校から離れた場所で英語科の先生方とお会いできるのはとても素晴らしいことです。

それは、私たちがお互いにより深く知り合える機会になるからです。

そして、講座ではいつも先生方の英語の知識とそれを使って自分を表現する力が豊かなのに驚いています。

ところで、私が最も印象深く感じていることは、研修に参加される先生方が皆とても創造力に富んでおられるということです。講座で行う活動の中で特に私が好きなことは、先生方にストーリー作りをお願いし、それを即席で演じてもらうというものです。ストーリー作りと即興劇は、そこに先生方自身の自然な姿が現われてくるので、いつの場合も面白いものになります。時には笑いこぼれるものもありますが、心に深く感じさせられるものがあります。活発な創造力を持っていることはその人の天性であり、それをさらに外国語で表現できるということはその人の努力が加わって得られた才能です。

さらに講座では、お互いに相手のことや興味、米国と日本とのちがいなどについて尋ね合うことができます。そして、私の考えではこのようなコミュニケーションこそ講座の大きなねらいの一つであると思います。なぜなら、学んだ外国語を使って他の人々と交流ができ、そして世界のことや外国に住む同じ人間仲間のことについて学べるようになることこそ外国語を学ぶことの目的だからです。

◆ 英語演習講座に参加して

清和中学校教諭 谷川 興子

昭和56年・57年度と、この広島市教育センターにおける英語演習講座を受講し、準備や指導をして下さる先生方の暖かさや熱意にあふれた講座内容であったことに、今、とても満足し、感謝しています。

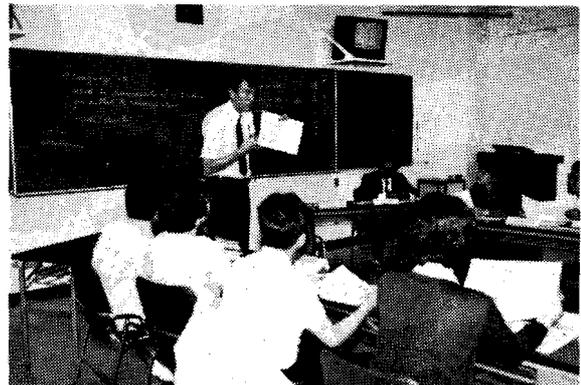
特に、Miss Linda Jackson, Mr. Laurence Wiig をはじめとする外国人講師の先生方の指導のもとに研修できるということは、native Speakerに触れる機会の少ない私にとって非常に有意義です。

さらに、物事を一面的にとらえがちな日常を、多種多様な方法、方面から考える絶好の機会となっています。

日頃、意識していない自分の言動や、ものの考え方が、日本人独特・特有のものであったと気づくことも少なくありません。

外国人指導者の先生との会話をすすめていくなかで、「外国（語）を学ぶことは、日本（語）を学ぶこと」と改めて考えさせられます。

自分が日本人であることを再認識しながら日本人の立場で、また、英語を話す人々の立場を忘れずに、英語を学んでいくことが、私自身にとっても、生徒にとっても必要なのだと、Miss Linda Jackson, Mr. Laurence Wiigに教えられたような気がします。



随 時 研 修 か ら

随時研修は、学校・教育研究会・グループや個人等が随時に来所され、教育センターの施設・設備を活用して研修されることをいいます。

昭和57年度の随時研修者は、延べ3,489名でした。研修内容は教材・教具の製作、指導法の研究など、多種多様でその中には校内研修をセンターで行われた学校もありました。

次にその一・二を紹介します。今年度も積極的に教育センターを御活用下さい。

◆ ビデオを活用した生徒会役員選挙

矢野中学校 田中利明

昨年11月のある水曜日の午後、私は本校豊原芳史先生・選挙管理委員会の生徒5名と共に、教育センターのスタジオを訪ねました。



以前、私たちは、教育センターでの教育機器技法講座を受講した経験をもとに、クラブ活動の時間に生徒たちが描いた紙芝居をビデオ撮りし、演劇部員に台詞をつけさせて文化祭に流したことがあります。

今回、教育センターを訪ねたのは、堅苦しい選挙告示に関心をもたせ、内容を徹底させ生徒会役員選挙を盛り上げるためにビデオ放映をしようと考えたからです。

ビデオ撮りまでには、毎日遅くまでかかって台本作り、画面の作成、読み合わせ等を作り返してからスタジオへ入りました。

それにもかかわらず、ビデオ撮り、編集に6時間ばかりを費やし、わずか10分程度の作品を製作することがこんなにも大変だとは思いませんでした。

テレビ局を思わせるようなセンターのスタジオで暑い照明を受けながらカメラを動かし生徒たちも実によくがんばりました。

また、ビデオの成果も期待以上のものがあり苦勞がむくわれたように思いました。

◆ 金属加工領域の実験と題材の開発

祇園東中学校 光原達夫

昨年度、祇園中学校及び祇園東中学校の技術・家庭科の教員5名が「広島市立学校教育研究グループ活動奨励金」を受け、金属加工領域の研究を行いました。

研究の内容は、金属加工の基礎実験と木材加工、金属加工の融合題材の開発が中心でした。この基礎実験では、低融点合金を用いた新しい実習題材の開発などまで発展させることができました。

研究を進める過程では、放課後等を利用して教育センターに出向いて、センターの施設・設備を活用させていただき研究を行いました。このことによって一層研究を深めることが出来たと思っています。また、このたび、こうした機会を得ることができたことは、私たちグループの、お互いの自己啓発のきっかけになり、非常に意義がありました。

本年度は、昨年の研究結果の一端を授業の中に取り入れて授業を行っておりますが、今後も教育センターを活用させていただき、さらに研究を続けたいと思います。



教育研究二題

当教育センターでは、各指導主事が個人研究と共同研究とを進めています。そのうち次の二題について要旨を紹介します。詳しくは、学校等に既にお届けした「研究紀要」No 3を御一読下さい。

◆豊かな発想を育てる工芸学習の指導について——板材でつくる「紙ナプキン立て」を中心に——

主任指導主事 坂本信義

美術科に対する興味・関心等を調査し、授業改善の一助にするため市立中学校生徒604名を対象としてアンケート調査を実施した。その結果、67.3%の生徒は、美術に強い興味・関心を示し、領域では、工芸に製作意欲を示していることが分かった。工芸学習で意欲を失う25.8%の生徒は発想段階で困惑している。それが以後の学習を阻害している要因になっていることも分かった。

「アイデアがうかばず、意欲を失う」のは生徒の必要感や願望、欲求のほりおこしの不足、目的や条件の不明確さ、魅力のない題材、発想の手がかりの不足、適切な資料や効果的な助言の不足、環境の不整備等が考えられる。

そこで、本研究では、身近な親しみのある題材「紙ナプキン立て」を設定し、導入の段階で、条件を変えた(①機能追求②動物形からの追求③偶然形からの追求)3学級で比較実験授業を試みた。授業後、3学級を比較した結果、発想段階で目的や機能を理解させ、直接紙を折る、切る、組む等の操作をとおして形態を発想させた「偶然形から」の学級がアイデアの質、量、独創性、製作意欲、満足度の点において他の2学級より優れていることが実証できた。今後も、他の領域や題材において、いわゆるガラスボックス的発想の方法を取り入れた指導法や教材開発を試みる必要を感じている。



「機能から」



「動物形から」



「偶然形から」

◆ことばの発達の遅れを伴う聴覚障害児の理解と指導について

——算数の指導事例を通して——

指導主事 宮河治

聴覚障害児の言語発達や教科学習の遅れに対しては、それらを相互に関連させた指導を工夫しなければならない課題がある。

そこで、本研究では、ことばの遅れを伴うひとりの聴覚障害児を対象に実態をとらえ、言語面を配慮した算数指導を工夫し、経過を検討することによって今後の治療的指導の在り方を明らかにしようとした。

指導内容は、「数と計算」及びそれに係わる文章題を中心に設定した。言語面については①操作のキーとなることばの理解、②状況・操作を表す文の理解、③操作の順に従って単文で表現された文章の理解、④操作の順に従った重文使用の文章の理解、⑤経過逆順の文章の理解というステップを設定し、それに基づいて言語的要素を選択した。

学習活動は、①具体的状況に即応した言語理解を中心にした活動、②具体的状況に即応した言語表現を中心にした活動、③プリント使用による学習活動という過程をとり、その中で使用する教材教具、プリントは、具体的把握・操作からことばを使った状況の理解・抽象的操作へと連続的に発展するように工夫した。

このような指導の経過から、ことばや教概念・数処理に対する指導効果を認めることができるとともに、学習意欲を高めるためには学習を生活化したり、学習のきっかけを生活に求める必要が明らかになった。今後さらに機能語いに焦点を当てた言語的配慮をしていく必要がある。

教育センターニュース

館内を飾る先生方の作品

今年度も市立小・中・高等学校等の美術・書写関係研究会に所属されている先生方の作品を館内に展示させていただいております。

研修の合間に御鑑賞ください。

教員特別研修生の受け入れ

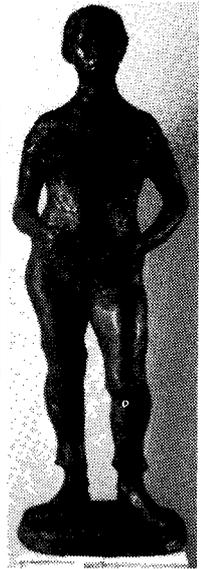
今年度前期は次の方々がそれぞれの専門分野で研修をすすめておられます。

- ◆ **同和教育**：藤野邦子教諭（三入小学校）
テーマ：人権認識を育てる社会科学習の在り方——6年生の歴史学習を中心にして——
- ◆ **生徒指導**：末友承三教諭（幟町中学校）
テーマ：「自らの問題に対処する力」を高めるための中学生への援助活動に関する研究



展示中の作品

（絵画21点、彫塑2点、デザイン1点、書8点が展示してあります。）



職員・分掌

人事異動

◆ 離任

平松康久次長(大州小学校校長へ)
登雄二主任指導主事(安芸中学校教頭へ)
岡田重敏主任(市教委社会体育課主査へ)
平末郁馬指導主事(己斐上小学校へ)

◆ 着任

末森一男次長(矢野中学校教頭より)
小久保武義主任(市教委学事課より)
佐々木英美子指導主事(庚午中学校より)
中土井正彦指導主事(古田小学校より)
民安和昭指導主事(可部小学校より)
中野豊三主事(安西中学校より)
横山元明教育相談員(市教委指導課より)

編集後記

昭和58年度最初の所報をお届けします。今回は研修講座へのお誘いを中心に編集しました。

暑さも次第に加わると思いますが、先生方の御自愛・御精進をお祈りします。

部門	職名	氏名	担当業務
管理部門	所長	岩竹 亨	所務総括
	次長	末森 一男	所務管理・執行
	主任	小久保 武義	部門総括、施設設備の維持・管理
	主任	反田 英明	予算、決算、経理等
	主任	中野 豊三	予算、決算、経理等
第一研修部門	主任	原 克昭	部門総括、障害児教育
	指導主事	田 測 裕	幼稚園教育
	指導主事	橋本 郁	生徒指導、教育相談
	指導主事	宮河 治博	障害児教育、教育相談
	指導主事	升尾 好博	特別活動
	指導主事	兼江 正明	教育相談
	指導主事	兼有 志郎	教育相談
	教育相談員	横山 元明	教育相談
第二研修部門	主任	森川 明水	部門総括、音楽科
	指導主事	佐々木 英美子	国語科
	指導主事	中土井 正彦	社会科、道徳
	指導主事	木本 寿直	教育工学(視聴覚教育)
	指導主事	福原 敏治郎	外国語科(英語)
	指導主事	民安 和昭	算数科、数学科
	研修指導員	新宅 力哉	教育工学(視聴覚教育)
第三研修部門	主任	坂本 信義	部門総括、図画工作科、美術科
	指導主事	重木 久人	理科
	指導主事	三宅 周平	理科
	指導主事	中村 道徳	技術・家庭科
	指導主事	※川 測裕	家庭科
	研修指導員	野沢 恒夫	理科
	研修指導員	茶木 米男	技術・家庭科

(兼)は兼務 ※は重複